

『山科植物資料館を訪ねる』

令和6年8月9日 4班担当

山科植物資料館は、京都市にある薬用植物園。製薬会社の日本新薬が運営する植物園であり、昭和9年に回虫駆除薬サントニンの原料植物となるミブヨモギの栽培試験ほ場として開設された。およそ2,400坪の敷地内で3,000種類以上の薬用植物が植栽されている。

同社は、創業当時大正8年の日本における回虫の感染率の高さに着目し、回虫駆除薬のサントニンの国産化を目指していた。サントニンの原料植物のひとつであるシナヨモギは、ソビエト連邦(当時)で栽培されており、日本では100%国外からの輸入に頼っていた。しかし、第一次世界大戦により、ソ連がシナヨモギの国外流出禁止政策を採ったため、入手が困難になった。昭和2年、南ヨーロッパの沿海地に自生するヨモギの一種(キク科ヨモギ属)の種子を試験栽培し、その花のつぼみからサントニンの結晶化に成功した。当時の日本新薬の本社と栽培試験ほ場だった京都府壬生の地名にちなみ、この植物はミブヨモギと命名された。ミブヨモギの栽培と結晶化に成功したものの、ヨーロッパ原産のミブヨモギは日本の高温多湿に弱く、また自家不和合性による変異が多いためサントニンの含量にも個体差があった。そこでミブヨモギの栽培方法の確立と品種改良を目的とした栽培試験ほ場として、昭和9年に山科実験農場を開設した。昭和12年、より多くのサントニンを抽出できる『山科二号』の開発に成功し、昭和15年に初の国産となるサントニンが発売された。昭和28年には、ミブヨモギのさらなる研究と品種改良、新たな薬用植物の研究・開発のため、同農場を改組・整備し、山科薬用植物研究所を開設。また、平成6年に山科植物資料館へと改称した。

1. 開催日: 令和6年8月9日(金)
2. 集合: 京都市営地下鉄東西線 **栂辻駅(なぎつじ)2番出口 10時集合**
3. 行程: 栂辻駅(なぎつじ)集合(10:00)→山科植物資料館(10:20着)→ガイドツアー出発(10:30発 ※1. →ガイドツアー終了(12:00)→班長会議・集合写真→解散(12:30)※2→栂辻駅流れ解散 ※3.

※1. 植物園の紹介に 30 分、園内の案内を 1 時間 30 分(約2時間)

※2. 4班が栂辻駅まで案内いたします。

※3. 昼食は各班もしくは個人で楽しんでください。(園内では食事はできません)

4. 持ち物: 飲み物、帽子、履きなれた靴、ストックなど
5. 参加費: 不要
6. グループ分け 各班ごとにグループ分けしてガイドツアーに参加します。
7. 実施可否 **小雨決行します。**
8. 参加者 各班の班長は7月25日までに連絡ください。



ミブヨモギ記念館

館内には、日本新薬の歴史をはじめ当社が展開する活動を紹介しているほか、希少な植物種などを展示しています。



ミブヨモギ

花のつぼみからサントニンの結晶化に成功した



家庭用サントニン

